第9講　否定形（その他の否定）

PART1　未嘗・未嘗不・不敢・不敢不

二　「特殊な否定」①

① **未嘗～＝いまダかつテ～ず／（今まで一度も～ない）**

（例）　未二嘗夜読一。〔未だ嘗て夜に読まず。〕

（　　　夜中に（書物を）読んだことが　　　　。）

② **未嘗不～＝いまダかつテ～ずンバアラず**

（今まで一度も～しなかったことはない＝いつも必ず～する）

（例）　未三嘗不二束帯一セ。〔　　　　　　　　〕

（　　　　　　　　　　　　）

問四　「未二嘗暫（しばらクモ）去一」を書き下し文にせよ（送り仮名の一部を省いている）。

問五「未ダ二嘗テ不一レ ル悲シマ二 石荊州之為リヲ一レ 人ト也。」を現代語訳せよ。

注　石荊州（せきけいしゅう）…人名。

為人（なり）…人柄。

悲…あわれむ。

③ **不敢～＝あヘテ～ず／（決して～ない）**

（例）不二敢知一。（　　　　　）（　　　　　）

★似ているので要注意！

＊敢不～（乎）＝あヘテ～ざランや

（どうして～ないことがあろうか、いや～する）

（例）　敢不レ知乎。〔敢へて知らざらんや。〕

（どうして知らないことがあろうか、いや、知っている。）

④ 不敢不～＝あヘテ～ずンバアラず

（どうしても～しないわけにはいかない＝必ず～する）

（例）不敢不尽。　〔　　　　　　　　〕

注　尽…「尽(つ)くす」。　（　　　　　　　　）

問六　「無カレ二敢ヘテ食ラフコトレ我ヲ也。」を現代語訳せよ。

問七　「不敢不慎」を書き下し文にして、現代語訳せよ。

注　慎…「慎(つつし)む」。

〈書き下し文〉

〈現代語訳〉

〈Memo〉

第9講　PART1　確認問題

① 「不㆓敢背㆒。」の読みと意味の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　またそむかず。　二度と背いたりはしない。
イ　ともにそむかず。　二度と背いたりはしない。
ウ　たへてそむかず。　決して背いたりはしない。
エ　あへてそむかず。　決して背いたりはしない。

② 「不敢不告也。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうして告げないのか、いや、告げるのである。
イ　おもいきって告げないことにするのである。
ウ　どうしても告げないわけにはいかないのである。
エ　どうして告げないのかわからないのか。

③「未二嘗不レ得レ見也。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　未だ嘗て見ゆるを得ずんばあらざるなり。

イ　未だ嘗て見ゆるを得ればあらざるなり。

ウ　未だ嘗て見ゆるを得あらずなり。

エ　未だ嘗て見ゆるを得ずんばなり。

④「今まで一度も～ない」の意味を含むものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　己所レ不レ欲、勿レ施二於人一。　　イ　其勢不二倶生一。

ウ　不三敢加二兵於趙一者。　　エ　未二嘗敗北一。

⑤「不二敢献一。」を「敢不レ献乎。」としたとき、意味はどのようになるか。その説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　強い否定から反語の意味に変わる。

イ　強い否定から疑問の意味に変わる。

ウ　二重否定から反語の意味に変わる。

エ　二重否定から疑問の意味に変わる。

第9講　PART1　解答

二

① （今まで一度も夜中に（書物を）読んだことがない。）
② 〔未だ嘗て束帯せずんばあらず。〕（今まで一度も正装しなかったことはない。）
③ 〔敢へて知らず。〕（決して知らない。）
④ 〔敢へて尽さずんばあらず。〕（どうしても尽くさないわけにはいかない。）

問四　未だ嘗て暫くも去らず

問五　今まで一度も石荊州の人柄をあわれまなかったことはないのである。

問六　決して私を食べてはいけない。

問七　**〈書き下し文〉**　敢へて慎まずんばあらず
〈現代語訳〉　どうしても慎まないわけにはいかない

第9講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「不敢～」は「あヘテ～ず」と読み、「決して～ない」の意。よって、エが正解。

②「不敢不～」は「どうしても～しないわけにはいかない」の意。よって、ウが正解。

③「未嘗不～」は「いまダかつテ～ずンバアラず」と読み、「今まで一度も～しなかったことはない（＝いつも必ず～する）」の意。よって、アが正解。

④「今まで一度も～ない」の意味を表す句形は「未嘗～」。よって、エが正解。エは「未だ嘗て敗北せず。」と書き下し、「今まで一度も敗北したことがない」と訳す。

⑤「不敢～」は「決して～ない」という強い否定の意味を表す。「敢不～（乎）」は「どうして～ないことがあろうか、いや～する」という反語の意味を表す。よって、アが正解。

〔解答〕

①　エ　②　ウ　③　ア　④　エ　⑤　ア